

「たいさくが大切」

神奈川県 川崎市立旭町小学校 3年 ^{しもかわ}下川 ひなの

土砂災害とは、とてもきけんでこわいものです。わたしたちの生活をいっしゅんでうばってしまいます。では、土砂災害にはどんなものがあるのでしょうか。また、どんなたいさくが出来るのでしょうか。

土砂災害の中には、「火山災害」「地すべり災害」「土石流災害」「崖崩れ災害」の4つがあります。土砂災害の原いんは、どれも雨や地しんなどです。強い雨や地しんがおきた時には、十分気をつけましょう。

わたしは、土砂災害が実さいにおきてしまった時、パニックにならない様、たいさくを調べました。大きく3つに分けてせつ明します。まず一つ目は、住んでいる場所が土砂災害のけいかい区いきかかくにんすることです。土砂災害は、山や川、崖が近くにあるなど、あるていど発生しやすい場所が決まっています。その場所は、「土砂災害きけんか所」「土砂災害けいかい区いき」として公表されていて、知ることが出来ます。まずは自分が住んでいる場所をかくにんしておきましょう。

二つ目は、原いんとなる雨や予ちょうにけいかいすることです。原いんの多くは、ごう雨という強い雨です。そして、土砂災害の予ちょうとは、崖にきれつができたり、小石が落ちてきたり、雨がたくさんふっているのに、川の水位が下がったりするそうです。雨がやんでからも、土砂災害がおきるきけんがあるので、雨が止んだ後にも気をつけることが大切です。

そして三つ目は、ひなんじょうほうにしたがってひなんするが、きけんを感じたら早めのひなんを行うことです。あらかじめ、ひなんけい路とひなん場所を決めておくことも大切です。家の中にいる時は、できるだけ上のかいにい動し、土砂災害がおそってくるしゃ面のはんたいがわの位置にひなんします。

ふだんのわたしたちの生活には、ライフラインという水や電気など、生活にかかせないものがあります。災害がおきた場合、そのライフラインがとぎれてしまうことがあるのです。ライフラインは、元通りになるまで2、3日かかる地いきもあります。なので、万が一にそなえて、3日間ていどのいん食りょうや、生活用品をじゅんびしておかないといけないということも分かりました。

このように土砂災害にはさまざまなたいさくができます。実さいに災害がおきた時に、パニックにならずに行動できる様、わたしは家にあるぼうさいグッズを見直し、バッグにつめ直し災害たいさくをしました。みなさんも、正しい知しきとたいさくを知り、土砂災害にそなえましょう。